



(259)0258006(10)20250801 C321\_15028

2025 年 7 月作成（第 1 版）

医療機器認証番号：307AIBZX00015000

機械器具 29 電気手術器  
管理医療機器 高周波処置用能動器具 70662000  
**ソニクエンス滅菌済モノポーラ・チップス**  
(滅菌済単回使用モノポーラ電極)

再使用禁止

【警告】

＜使用方法＞

- 1) 酸素や亜酸化窒素などの可燃性ガスの濃度が高くなっている所では、一時的にこれらの濃度を低下させてから使用すること。  
[酸素及び亜酸化窒素( $N_2O$ )は火勢を強め、激しい燃焼を引き起こすため。]
- 2) 可燃性の液体や物質(アルコール性の皮膚消毒剤、チンキ類、液体包帯、骨セメント及び乾燥したガーゼ)などが存在する所では、十分に蒸発させるなどこれらの物質を除去する措置を講じてから使用すること。特に体の下や臍のような人体の陥凹部や、体の下などに可燃性溶液が溜まらないように注意すること。[電気手術器は、正常な使用であってもメス先電極の先端から火花が発生し、着火源となって患者及び手術スタッフに熱傷など重大な健康被害を与える可能性があるため。]
- 3) 可燃性麻酔剤や可燃性ガスを除去すること。また、体内で発生する可燃性ガスも含めて気化したガス等が充満しないように排除すること。[メス先電極からの火花により爆発・引火を引き起こす可能性があるため。]
- 4) 一時的に使用しないメス先電極は患者から離し、専用のホルスター等に収納するか、絶縁された器具台に置くこと。特に使用直後のメス先電極は患者体表面や覆布の上には直接置かないこと。[使用直後のメス先電極先端は、高周波電流により発熱している。乾燥しているガーゼや覆い布などの発火や、患者や手術スタッフの熱傷の原因となるため。]

【禁忌・禁止】

＜再使用禁止＞

本品は単回使用のため再使用を行わないこと。

＜適用対象(患者)＞

過去に銀又はその他の金属に対してアナフィラキシー様症状などアレルギーの既往歴のある患者には使用しないこと。

【形状・構造及び原理等】

1) 構成

本品の構成は以下のとおりである。

本品は補充のため単体で販売することがある

滅菌済単回使用モノポーラ電極

(1) モノポーラ電極

ニードル電極・ワイヤー電極・マルチグライド電極・ブロードニードル電極・ボール電極・ループ電極・スパチュラ電極・ピン電極

(2) フレックス型シャフト電極

ボール電極・ワイヤー電極・ラウンド・ループ電極・ダイヤモンド・ループ電極・スパチュラ電極・ニードル電極

(3) マイクロニードル電極

マイクロニードル電極(straight)・(straight45)・(angle45)・(angle90)・(curved)・(Bayonet)・(shaft angle)・(curved)

(4) RF 吸引管電極

RF 吸引管電極(ハンドスイッチ式 直型)  
RF 吸引管電極(ハンドスイッチ式 アングル型)  
RF 吸引管電極(フットスイッチ式 直型)  
RF 吸引管電極(フットスイッチ式 アングル型)

(5) マイクロファイバー電極

マイクロファイバー電極(ワイヤータイプ)  
マイクロファイバー電極(ボールタイプ)

2) 形状

図に示すとおり（代表例）

(1) モノポーラ電極



(2) フレックス型シャフト電極



(3) マイクロニードル電極



(4) RF 吸引管電極



(5) マイクロファイバー電極



3) 原材料

通電部：

タングステン、黄銅合金、ステンレス、アルミニウムチューブ

4) 原理

本品はハンドピース又は接続部品を使用して電気手術器の本体に接続し、一体型製品は直接電気手術器の本体に接続し、通電したときに電極の通電部に高周波電流を流す構造である。対極板と共に使用する。また本品には電気手術器の本体に接続すると同時に吸引器にも接続し、創部の出血時に生じる血液等の液体や手術時に生じる煙等を吸引しながら使用することができるものも含まれる。

5) 最大許容高周波電圧：4kVp

6) 製品詳細：

必ず対極板とともに使用する。

本品は単回使用品である。

滅菌方法の種類：エチレンオキシドガス滅菌

【使用目的又は効果】

高周波電流を用いた生体組織の切開又は凝固を行うために外科的手術に使用する

【使用方法等】

- 1) 使用前に使用者が包装、製品、使用期限に問題が無いことを確認する。
- 2) 本品を滅菌包装より無菌的に取り出す。
- 3) 本品は当社指定のハンドピース又は接続部品を使用して電気手術器の本体に接続し、使用する。一体型製品は電気手術器の本体に直接接続する。
- 4) 使用前に、通電に問題が無いことを確認する。
- 5) 電気手術器の本体の操作方法に従ってモードや出力を設定し使用する。
- 6) 期待する切開・凝固が行えるようになるまでゆっくりと高周波処置の出力を上げて調整する。
- 7) 使用後は接続部品から外し、廃棄する。

＜使用可能な電気手術器＞

代表例

| 一般的名称（JMNコード）      | 販売名         | 認証番号             | 製造販売業者            |
|--------------------|-------------|------------------|-------------------|
| 一般的電気手術器（70647000） | ソニクエンス高周波装置 | 307AIBZX00016000 | 株式会社ESE Japan(自社) |

＜使用方法に関連する使用上の注意＞

- 1) 熱傷の危険性を減少させるため以下の点に注意すること。
  - 高周波電流が、比較的小さな断面積で身体の部分を通れる外科的処置の場合は、不要な凝固を避けるため、出力を小さくすること。
  - 通常の出力設定であるにもかかわらず、望ましい手術効果が得られない場合は、出力を上げる前に、電極部の炭化物付着及びケーブルの接触不良が考えられるため、再確認を行い、異常が無いことを確認してから使用すること。
  - メス先電極のコードは患者の身体に直接触れないよう配置すること。[誘導による高周波分流入が発生する恐れがあるため。]
- 2) 神経や筋刺激を避けるため、出力を最小限とし、又金属性鉗子を経由した凝固の場合にはメス先電極を鉗子に接触させてから出力すること。[電気手術器の高周波電流では、神経や筋の刺激は起こさないが、切開や凝固時に発生する 放電(スパーク)によ

取扱説明書を必ずご参照ください。

り高周波電流の一部が整流され、低周波成分を生じて神経や筋を刺激し痙攣や筋収縮を起こすため。]

#### 【使用上の注意】

〈重要な基本的注意〉

- 1) 針状の生体モニタ電極の使用は可能な限り避けること。[モニタ電極面積が小さい場合、高周波分流による熱傷が発生する恐れがあるため。]
- 2) 併用する電気手術器本体の出力モードの選択、及び出力設定にあたっては、本製品の定格電圧を超えない高周波電圧とすること。出力モードごとの最大高周波電圧は電気手術器本体の添付文書又は取扱説明書などを参照すること。

〈相互作用(他の医薬品・医療機器との併用に関すること)〉

1. 併用注意(併用に注意すること)

| 医療機器の名称等                           | 臨床症状・措置方法                                                                              | 機序・危険因子                                 |
|------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 植込み型心臓ペースメーカ<br>※1<br>自動植込み型除細動器※1 | 機能停止                                                                                   | メス先電極コードを流れる高周波電流により高周波干渉が発生する可能性がある。   |
|                                    | 固定レート化                                                                                 |                                         |
|                                    | 不整レート発生                                                                                |                                         |
|                                    | 心室細動の発生                                                                                |                                         |
| 生体モニタ装置                            | モニタ電極は本製品で使用する電極類からできるだけ離し、センサーケーブルなどはメス先電極コードから可能な限り離して設置すること。又高周波電流保護機能付きの装置を使用すること。 | メス先電極コードを流れる高周波電流により正常なモニタができない恐れがあるため。 |

※1 これらの機器を植込んだ患者に電気手術器を使用する際は、該当する機器の添付文書等を参照すること。

〈不具合・有害事象〉

- 1) 重大な不具合
  - ・可燃性物質・可燃性ガスへの引火・爆発
  - ・意図しない出力
- 2) その他の不具合
  - ・電極・アクセサリ等がハンドピースや接続ケーブルに適切に装着されていない場合に出力不備の可能性
  - ・患者の身体が他の医療機器(診療ベッドや心電図モニターの電極など)の金属部分が接触している場合に熱傷の可能性
- 3) 重大な有害事象
  - ・熱傷
  - ・痙攣や筋収縮
  - ・体内生成ガスの爆発による臓器損傷など

#### 【保管方法及び有効期間等】

- 1) 保管方法  
周囲温度の範囲： -20℃～60℃  
相対湿度の範囲： 10%～90%（結露のないこと）
- 2) 有効期間  
3年[自己認証(当社データ)による]
- 3) 使用期間  
本品は、単回使用品であり、1回の使用で期限となる。尚、再使用はできない。  
製造業者が指定した、製品包装に表示している期限を本品の使用期限とする。

#### 【主要文献及び文献請求先】

文献請求先 株式会社 ESE Japan TEL：072-845-5686

#### 【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

〈製造販売業者〉

株式会社 ESE Japan TEL：072-845-5686

〈外国製造業者〉

製造業者：Soniquence, LLC(ソニクエンス(米国))

取扱説明書を必ずご参照ください。